食膳に上る動物（其一）

東京女子高等師範學校助教授　平島權藏

○烏賊の話

食膳に上る動物と申しも其種類なか〳〵多くてとても悉く御話の出來るものでもなし、又御話する積りでも在ません。こんな標題を掲げて見ましたけれど、何所迄御話して何時御免蒙るか分かりません。そんな事で此貴重の紙面を汚すのは、相濟まぬ樣な氣も致しますが。若し少しでも御役に立つ所が在るか、又は面白い所が在りましたならば、其は私の滿足する所で在ります。で御話する種類も何を先きに、何を後にと申す、順序も何も在りません。唯途上の魚屋などに見付かつたものを手當り次第と申す樣に御話致しませう。

いかは烏賊又は墨魚と書きます。魚類でも蟲類でもなく、寧ろ貝類に近いので、併せて軟體動物といふ、一門に入れて在ります。然し貝類の樣に、體外に殼を持ちませぬ、が體內の背部に炭酸石灰から出來た、所謂「烏賊の甲」とて船形の殼が在ります。頭は明かに體軀と區別され、拾本の足（手の樣な用する）は、口の周圍に在つて、各の內側に多數の吸盤が在ります。頭の兩側には、大なる眼が二つ扁き體の兩緣に肉質の鰭が二つ、腹側には袋の樣な外套膜の中に漏斗といふものが在ります。

棲所は、多く外海で在つて、唯產卵の時季に海岸近くに來るので、產卵終れば再び外海に歸ります。全國殆んど產せぬ所なく、特に北方に多い

ので、函館邊りで漁獲の盛んな時には、其價東京の何十分の一ださうで在ります。前に述べました外套膜の背側内には、二個の柔軟なる鰓が在ります。是れで

●呼吸●を營むので在つて、其場所を外套腔とも鰓腔とも謂ひます。水が外套膜緣から、此腔に流れ込み鰓を浸潤（卽ち呼吸）して後、腸と腎臟からの排泄口が此腔に開いて居るので、其糞尿を共に流し込み、今度は管狀の漏斗の口から、體外に流出する、其有樣は丁度烟突の樣で在ります。此時には初め水の流れ込んだ外套膜緣は、勿論密閉せられねば成りません、其爲めには單に外套膜緣の收縮計りでなく、其内面には押し釘の樣な凸起が在つて、體軀の方には是れが塡まる丈の凹みが在る、だから滑れる樣な事なく、互に都合能く閉ぢ合されます。

●運動●するには、此漏斗管から水を猛烈に吐き出し其反動で、體を後進せしむる、其れは實に迅速で丸で鳥の中空から射下するのと同じで在ります。前の呼吸と此射行とは同じく漏斗管の作用では在るが、唯其緩急を異にするのと、水棲の動物でなければ出來ぬ働きで在ります。此際其足は出來るだけ擴げて、後速かに集合させます、初めのは水を打ち後のは其抵抗を少くするので在つて、魚の迅速に泳ぐ時に、鰭を悉く體側に押付くるのと同樣で在ります。後進は斯くの如く迅速で在るが、

●前進●は是に反して非常に緩漫で在ります。其れは彼の内鰭と、下方の四本の足（拾本の足は上下方に各四本と側方に二本）とで游ぐので在ります。

●烏賊●は肉食で且つ暴食で就中魚類蝦蟹等を嗜好します。斯の如き迅速に游泳する動物を捕ふるにも拘はらず、彼れは此時海底で緩漫なる運動をして居ます。然し其體色は非常に速かに、其周圍

の色彩に一致させます。是れは水族館の様な所で實驗する事が出來る。此機能は、彼の體面に存在する、無數の色胞の作用で、赤の色胞のみ開張すれば赤くなり、鳶の色胞のみ開張すれば鳶色といふ樣に、或は緣或は何と種々の複雜なる色彩に變化し得らるゝので在ります。丁度吾々の

●眞赤●になつて怒り、眞青になつて恐怖するのと同樣で在ります。是れは章魚なども同じで、章魚が能く海岸の岩石の間などに潛伏して居るのを引き出し棒などで打ちますと、眞青になり、放すと忽ち岩の色に變ります。又水中を速かに游ぐ（射行）時には青くなります。是れは海水の色に擬するので、何れも敵の眼を晦ますか、得物の目に付かぬ樣にするので在ります。のみならず烏賊は又砂に潛り小石を集めて其體を匿します。彼れは前述の通り自分とは比較の出來ない程迅速なる動物を捕獲する其の唯一の

●器關●は實に拾本の足で在ります。內二本は甚だ長く、吸盤も非常に强く、是を獲物に投げ懸け（昔の鎖鎌の樣に）そして吸盤を其體に付着せしめさへすれば其獲物を取り逃す樣な事は殆どない。次ぎに此長い足を段々と縮めて犧牲を引き寄せ、短い八本の足の數百の吸盤で確と捕り押さへる。各の

●吸盤●は丁度果實の樣に柄が在つて、周緣に軟骨の輪を作り、筋肉の能く發達した形は「スタンプ」に似て居て中空で在る。彼れが此吸盤を獲物に吸着かすのは、先づ出來るだけ「スタンプ」を外に押出し、獲物に押付けて間に空氣の狹らぬ樣にして、急に是を緩め其中央の筋肉を牽くと其所に眞空が出來ます、外圍の空氣（實際は海水）は侵入せんとして强く周緣を押します、丁度醫療に用ふる吸玉の樣に、强く獲物の體に吸着するので在ります。又吸盤の助けで彼れは徐々に進行します

此時は口を下に卽ち頭部を下にして居ますから此類を

頭足類と申すので在ります。口の中には丈夫な二個の鰐が在ります。是は所謂鳶烏で、其中央に眞田紐の樣に扁く、「ワサビオロシ」の樣に細かい、齒の在る舌が在つて、是を鰐と摩り合せ食物を碎きます。彼は肉食生活をしますので、獲物を見出す爲めに、

强大なる眼の必要が在ります、彼の眼は哺乳類と殆ど同樣の形と構造とを持つて居ります。同じ軟體動物でも貝類などゝは大變に違ひます。

彼の敵は大形の魚類と齒鯨類（鯨には口中に鬚を有するものと齒を有するものと在ります、齒を有するのを齒鯨類と申ます）とで在つて、是等の敵に追はるると、迅速に海底に潛り、忽ち周圍の色彩に擬すると申す事は既に述べましたが。今一つは實に此類の獨特の機能で、其外套膜に排泄する

黑鳶色の色素で在ります、是を漏斗口から海水中に吐出すると、忽然として暗雲を起し、敵から韜晦するので在ります。此色素は體中の

黑囊中に分泌貯藏せるもので、墨魚の名も是から出たので在りません。生きたる烏賊を水中に入れて虛めますと、直ぐに此墨液を出しますが、空氣中では決して出しません。實に本能の然らしむる所とは申せども、自然の妙はなか〳〵味ひ盡せません

蕃殖は他の頭足類も大程同じ事で卵生します烏賊の卵は黑褐色で、柄が在つて、此柄で海藻などに附着し、丁度葡萄の樣で在ります。海葡萄とでも申ませうか、其粒々の中に、小供が孵化近くなつて居ますのは、可愛らしいもので在ります。

（多く五六月）

漁獲するのは、魚類の樣に釣又は網を使用す

るのが困難で在ますから、大抵擬餌釣と申すのを用ひます。是れは桐の木などで、小魚や蝦の形を作り、其下の方に鈎を付けたもので。烏賊は是を食餌と間違ひ吸着しますと、其鈎に引つ懸かゝるので在ります。大漁の時は殆ど投げ込んでは引つ懸け投げ込んでは引つ懸けと申様に間斷なく捕れるので

三崎 で私が見ましたのなどは、夏の夜に入りて三三五五と漕ぎ出で　二里計りも沖に行つたのがもう十一時頃には、二三人位乗つた、小さな一艘の船に四斗樽に五杯も六杯も漁つて歸つて來ます。(是が直ぐに汽船で東京に送られます)是で見ましても、其釣獲の時間は僅かに一二時ばかりと申す事が知られます。此船は皆烏賊を寄せ集める爲め篝火を燃いて居ます、僅か二三里の近海に沿ふて、數里に渡る漁り火の波に搖らるゝ有様は誠に夏の夜景の趣味を深うします。

たこ(章魚又は蛸と書きます)も烏賊と同様の習性を持つて居りますが、是れは多く海岸近くに棲んで岩石の間などに、晝間は匿れ夜間に出で食を求めます。食物も烏賊と同様に肉食で在ります。蛸を漁獲するには大抵

蛸壺 を用ひます。是は小さな壺に紐を付けて太い綱に幾つも〳〵結び付け、珠數の様にして海底に永く沈めて置くと、蛸が其中に入り込んで居ます、其時綱を引けば蛸は固く壺の中に吸着いて遂に陸に引き上げらるゝので在ります誰かの句に

蛸壺や果散なき夢を夏の月

と申すのが在りますが能く此邊の消息を言ひ表はして居ります

烏賊の肉 は鮮食もしますが、鰯として清國に輸出する高は隨分多額で、毎年二百數十萬圓に達するそうで在ります。鰯は我國にも神饌に供し、慶賀の際にも用ひますが、清國では盛宴には無く

てならぬ物の一つだそうで在ります

最後に烏賊と蛸との種類を御話して終りと致さうと思ひます。是は餘り悉しくすると管々しくなるのと、分類的の事は趣味の少ないもので在りますからほんの種名を擧ぐる位に止めます

烏賊と普通申すのは「まいか」の事で胴の大きさ七八寸位で本邦各地の外海に產します其卵は大形で相連つて房となります是は鮮食し又鯣にも製します「あふりいか」と申すのは、一寸前者に似て居りますが、胴の長さ三尺にも達するのが在ります。我國では南方に多く是も鯣として支那に輸出します「やりいか」は胴の長さ一尺四五寸で、內鰭は三角形に側方に突出で、胴も幅狹まく鎗の樣な形をして居ます。我國では中部に多く產して大抵鮮食します。「するめいか」は胴の長さ八九寸で前者に酷似して居ますが、著しく異なる點は、眼の角膜が開いて孔の存するため、水は自在に此所から流入する事が出來るので在ります。北方に多く產して盛んに鯣を製します。輸出の大部分は此鯣で在ります。

烏賊の墨汁は製して、水彩繪の具「セピア」と致します。此色は一種氣品の在る善い色で在ると思ひます。又其甲は粉末として、齒磨の材料とか磨き粉に用ひます。

蛸にも種々在りますが、普通の「たこ」は大きさ三尺位に達しますが。「いひだこ」は小さくて僅かに七八寸を超えませぬ。食用にも致しますが多くは釣魚の餌に供します。以上二種は我國各地の近海に產しますが、「あしながたこ」は海峽などの水流の急なる所に產します。是を釣るのに、河豚の肉を餌とするそうで在ります。播州明石の名產「海藤花」は此「あしながたこ」の房狀の卵の鹽藏したもので在ります。